

# 手話言語法ニュース

2017年12月15日 No.48

事務局：一般財団法人全日本ろうあ連盟 〒162-0801 新宿区山吹町130 SKビル8F  
TEL: 03-3268-8847/FAX: 03-3267-3445

手話言語法制定推進運動本部：委員長 石野富志三郎 事務局長 久松三二

法制定検討グループ：久松三二（事務局長兼）・大杉 豊・田門 浩

普及啓発・広報グループ：小中栄一・石川芳郎・岡野美也子・倉野直紀

条例・ネットワーク支援グループ：長谷川芳弘・川根紀夫・石橋大吾・大竹浩司

## 各地でイベント開催

### 兵庫県

10月1日、三田市の総合文化センターで「第67回近畿ろうあ者大会」が近畿ろうあ連盟主催、兵庫県聴覚障害者協会の主管で行われました。

当日は、近畿各地からろう者、手話関係者、行政、議員等を含め、約900名が参加しました。

当大会の目玉である「パネルディスカッション」では、「各市における手話言語条例の特徴及び今後の抱負」をテーマに行われました。

コーディネーターに兵庫県聴覚障害者協会の小林泉副理事長、パネリストには奈良県大和郡山市の上田清市長、滋



パネルディスカッションの様子

賀県近江八幡市の富士谷英正市長、和歌山市の森井均副市長、兵庫県加東市の安田正義市長、兵庫県三田市の森哲男市長、兵庫県明石市長であり、全国手話言語市区長会の泉房徳事務局長（以下、泉市長）が登壇しました。

また、埼玉県戸田市議会の佐藤太信議員、東京都北区議会の斉藤りえ議員、兵庫県明石市議会の家根谷敦子議員がメッセージを述べ盛況の内に終了しました。

★この模様は、当連盟のホームページに掲載しております。

・「地域の動き」

<http://www.jfd.or.jp/2017/11/30/pid17110>

### 長崎県

11月5日、長崎市の長崎県総合福祉センターで「手話言語フォーラム～長崎にも言語条例を！！～」が開催されました。

このフォーラムは「聴覚障害者と聴こえる住民が互いを尊重し合い、共生、共存できる地域づくりを推進するため、手話言語を広げ、また手話を使いやすい社会環境を構築する必要がある。このフォーラムは、これらの実現のためには何が必要なのかを学ぶとともに、多くの人にその必要性を知ってもらうこと」を目的とし、鳥取県の平井伸治知事が「手話言語条例で拓く未来」をテーマに基調講演を行いました。



鳥取県 平井伸治知事

パネルディスカッションでは、連盟理事の小椋がコーディネーターを務め、長崎県福祉保健部の桑宮直彦障害福祉部長、長崎県立ろう学校の上田克校長、長崎県高齢聴覚障害者実態調査班の長野秀樹氏、長崎県ろうあ協会の坂口義久会長がパネリストとして登壇し、「手話の広がりとうろう者の暮らし」をテーマに討論を行いました。



連盟理事 小椋



長崎県ろうあ協会 坂口義久会長



会場の様子

### 富山県

11月19日、富山市の富山国際会議場で「手話言語フォーラムinとやま」が開催され、行政・議員関係32名含む約360名が参加しました。

「手話に関する条例を、できれば来年春を目途に制定する方向で具体的な検討を進める」と富山県の石井隆一知事が挨拶（布野厚生部次長代読）を述べました。

連盟事務局長の久松が手話言語法・条例の運動の目的、意義、成果等について講演した後、県内で初の手話言語条例を制定した滑川市の上田昌孝市長からの報告、そして泉市長から、手話市長会と明石市の取り組みについて講演しました。

パネルディスカッション

では、県厚生部障害福祉課の齊木志郎課長から、富山県手話言語条例（仮称）制定検討委員会の主な論点・意見等の報告を頂き、条例制定と今後の展望などについて意見を交わしました。

富山県協会の橘氏から、「手話への理解が進み、環境を変えてほしい」と訴え、泉市長からは、「障害者が暮らしやすい社会を作るのは行政の責任」と強調し、「障害者に優しい町づくりは、子供や高齢者にも優しい町づくりにつながった」と述べました。



パネルディスカッションの様子



左から滑川市の上田市長、富山県厚生部の齊木福祉課長、富山県聴覚障害者協会の橘氏

フォーラム終了後、参加者らは手話を広めていく活動積極的に関わっていきたい、民が手話を身近に感じられることを望みたい等の感想がありました。

## 北九州市

12月3日、福岡県北九州市の北九州市立男女共同参画センター・ムーブホールで「第20回北九州市手話フェスティバル」が開催され、ろう者、手話関係者、行政関係者を含め約300名が参加しました。

今回で20回目を迎える同フェスティバルは、4者トークとして、連盟理事長の石野、事務局長の久松、全国手話通訳問題研究会の橋本博行副会長、北九州市聴覚障害者協会の大澤五恵理事長が登壇し、「手話はここ～手話は「ろう者のことば」として守られ、そして今…」をテーマに手話言語法・条例の早期制定を願って対談しました。



左から北九州市聴覚障害者協会の大澤五恵理事長、全国手話通訳問題研究会の橋本博行副会長、連盟理事長石野、事務局長久松

その後、北九州市聴覚障害者協会と北九州手話の会による障害者差別を織り込んだ手話寸劇「おんな五右衛門物語」を披露し、盛況の内に終了しました。



北九州市聴覚障害者協会、北九州手話の会による手話寸劇「おんな五右衛門」



会場の様子



## 手話言語法制定推進運動本部 海外調査チームを派遣

**手話言語法制定推進運動本部は、11月5日から11月15日までハンガリーのブダペストへ調査チームを派遣しました。**

調査チーム一行はハンガリー科学アカデミー言語研究所多言語研究センターのピーター・ザラン・ロマネスク氏（ろう者）より、ハンガリー手話言語法成立までの取り組みの経緯、聞こえない乳幼児の保護者に対する情報提供について、ろう教育や手話通訳制度等についてのお話を伺いました。



ピーター・ザラン・ロマネスク氏（中央）



面談の様子

またハンガリーろう・難聴者協会（SINOSZ）への訪問の際は、手話言語法制定までの経緯、具体的な施策や効果、協会として実施している関連事業等をロバート会長（Róbert Ormódi）よりお話いただきました。

ハンガリーろう・難聴者協会の役員と共に



面談の様子

「EduKid（乳幼児聴力検査センター）」訪問の際は、ハンガリーのろう教育の歴史やろう学校の現状、新生児聴覚スクリーニング、ろう児への療育・教育支援の状況などについてお話を伺いました。

その後、日本やヨーロッパのろう教育の現状をふまえての意見交換を行いました。



EduKid（乳幼児聴力検査センター）の職員の方と共に



意見交換の様子

また、「在ハンガリー日本国大使館」や「ハンガリー政府人材能力省」、「全国メディア・情報通信管理機関」と面談を行い、11月8日（水）から10日（金）には世界ろう連盟国際中間会議に参加しました。

**ピーター・ザラン・ロマネスク氏よりメッセージをいただきました。**

「日本の皆さま、こんにちは。皆さまに喜んでお伝えしたいことがあります。

このたび、インタビューで非常に重要なことを話し合いました。聞こえない乳幼児を迎え入れる家族や友人、学校、生活、仕事における取組みについて話し合いました。

この話し合いは、日本の生活を変える取組みにおいて参考になるでしょう。それはとても重要なことです。

私は皆様の手話言語法制定への取り組みを支持します。日本のろう者の皆さまを応援しております。」

●ハンガリー調査の様子は連盟ホームページに掲載しています。

「全日本ろうあ連盟 手話言語法制定推進事業」

<http://www.jfd.or.jp/sgb>